

NPO 京都コミュニティ放送
第 147 回 番組審議会 議事録

開催日時：2021 年 12 月 21 日（火）10：30～11：45

会 場：ラジオカフェ事務所、Zoom 併用

出席委員：中村正、福井秀彦 ジェフ・バーグランド、岡本卓也

欠席委員：隅井美沙子、岡田芳宏

事務局：松岡千鶴、藤本香（順不同敬称略）

ゲスト：「かさぶたができるまでの時間」12 月 17 日 23 時放送 20 分番組

制作者 京都芸術大学 常光佐知香さん

■審議番組：ラジオドラマ「かさぶたができるまでの時間」12 月 17 日（金）23 時放送

冒頭 番組制作者 常光佐知香さんが自己紹介の後番組趣旨を説明。

京都芸術大学文芸表現学科中村ゼミは、文芸×社会をテーマに雑誌「アンデパンダン」を制作する編集ゼミ。今年は「ジェンダー」と「生きづらさ」を特集。雑誌掲載の作品を、ラジオでも放送しようという事になった。11 月 12 月でラジオドラマを制作した。

■12 月 17 日放送のラジオドラマを聞いて審議に入った。

- ・演者が全て学生なので、父親や母親の区別が分かりづらい。兄の活舌が悪いのが気になる。このテーマは何故選んだのか？
- ・コロナ禍で顕在化した虐待に注目した。考えるきっかけになればと考えた。（常光）
- ・ステイホームの増加で虐待が増加した。ストーリー展開は良くできている。
- ・TV など映像は情報がたくさんある。ラジオの情報は音だけ。声しかない。父母の声の若さは気になるが、主人公の声が良く、話に引き込まれた。コロナ禍の話が少ない印象だが、台本は良く書けている。
- ・良いテーマだと思う。準備はどのようにしたのか？
- ・1 年位前からルポやニュースをチェックした。（常光）
- ・リアルだともっと色々あると思うが学生の作品としてはよくできている。主人公が違えば見る目が違う。スピンオフ作品を作ってはどうか。
- ・全体としてよくできている。プロとしては距離感、空気感にこだわりたいところ。又 BGM がずっと流れていたが、BGM を無くす時間があると言葉が立つ。言葉は大切にしてほしい。短い効果音も使うともっと良くなると思う。
- ・電車の駅名が使われていたが、繁華街に近い駅の時は雑踏の音なども使うと、より風景が見えてくる。声、音だけのラジオドラマだからこそ、風景が見える事が大切。
- ・主人公を変えて違う視点で、又、ラジオドラマにチャレンジしてほしい。

以上で審議を終了した。

この審議会の議事録は 2021 年 12 月 24 日から事務所で閲覧できるようにした。

この審議会の議事録は 2021 年 12 月 24 日からホームページで公開した。